

JEACS

福音讃美歌 ジャーナル

2019.11 vol.28

Japan Evangelical Association
for Congregational Singing

百見は一聞にしかず ーオーディオ・コンサートの感謝ー

JECA 首里福音教会 牧師 由井純

『教会福音讃美歌』は、2012年秋から主日礼拝や平日の諸集会で使わせていただいています。あれからもう7年にもなるのですね。この間、教会に集う方たちからいろいろな声を耳にして来ました。

楽譜も歌詞も読みやすいという事は、それだけでも高齢の方たちにとって大きな喜びのようです。歌詞が理解し易いと言う声は若者からはもちろん、意外にも年配の方たちからも多く聞かれます。

カノンで歌える曲(292～294、207、6など)、テゼ共同体の短く味わい深い讃美(223、273、290、291)などは大人気です。その一方で、何かのうちに本棚の奥から『讃美歌』、『聖歌』を引き出して歌うということもあるようですが。

このように『教会福音讃美歌』が受け入れられていることを感謝する一方で、収録された506曲の中には、まだ私たちには良さが味わいきれていない、いわば「宝の持ち腐れ」になっている曲がたくさんある、その素晴らしさを教えていただけたら…という思いが、いつもありました。

2年ほど前からでしょうか、福音讃美歌協会のオーディオ・コンサートの働きを知りました。沖縄までおいでいただくことは難しいのかとも思いましたが、昨今は重厚長大なオーディオ機材を用いなくても、スマートフォンやパソコンに収めた音源データを、小型で高音質のアンプ付スピーカーで再生することもできます。そんな技術的な背景もありましたので、福音讃美歌協会

理事長の中山信児先生から沖縄訪問のお知らせを受け「どんな奉仕を希望しますか」とお尋ねいただいたとき、私はためらいなく「オーディオ・コンサートをお願いします」とお伝えしたのです。コンサート前に「これで行きましょう」とお渡しいただいたのは、CD『教会福音讃美歌』(Vol.1～5)から選ばれた13曲の曲

CONTENTS

	Page
・オーディオ・コンサートの感謝	由井純 1
・沖縄訪問レポート	中山信児 2
・編集作業の道のり 第13回	中山信児 5
・賛美と向き合うとき	大嶋英知 6

名リストでした。会場の設備は小型のアンプ付きスピーカだけで、CDの音声を収めたパソコンが接続されました。コンサートの本番では、曲の紹介・解説のあと、全曲をフル・コーラスで演奏していただきました。休憩なし・会衆讃美なしでしたが、聴衆一同は一曲一曲に引き込まれて、文字どおりあっと言う間の90分でした。

主のご復活を歌ったタンザニアと日本の讃美の違いに驚き（150, 151）、5拍子の曲や、三拍子・二拍子の混在するポリリズムのアレンジに感動し（130, 176）。有名な祈りのことばに基づく讃美を味わいました（395, 485）。しかし、13曲全体を通じて最も印象的だったのは、洋の東西、新旧、曲想、演奏スタイル、アレンジなどの違いの一切を超えて、讃美のメッセージのことばがまっすぐに聴く私たちに届いてくると言うことであつたように思います（369, 428, 466等）。

コンサート後のティー・タイムが、「質疑応答」の時間になりました。ご家族を天に送って間もない方は、葬儀で歌った334番の歌詞に励まされたことを講師の先生に伝えておられたようです。地域の他教団の方の中にも『教会福音讃美歌』を購入して愛用しておられる方たちがおられるのですが、この日もそのようなファンの方5名の方が集っておられました。CDを購入された方が多かった事も、驚きでした。教会でも購入し、平日の集会などで一曲だけの「続・オーディオ・コンサート」のために使わせていただいています。

他所での開催状況については存じあげませんが、ここに報告させていただいたオーディオ・コンサートは、道具立・演出のシンプルさではおそらくナンバー・ワンだったのではないのでしょうか。にもかかわらず、聴衆一同が純粋に讃美の素晴らしさに心打たれ、主の栄光を拝したひとときでした。教会の働きとしての新しい讃美歌集の編集・発行・浸透のために献げられている祈りとお働きに感謝しつつ、一切を導かれた主にご栄光を帰したいと思います。

■沖縄訪問レポート

福音讃美歌協会 理事長 中山信児

今年9月10～19日の10日間、福音讃美歌協会から遣わされて沖縄の諸教会を訪問し、讃美についての奉仕をしました。9月の沖縄訪問が決まったとき、まず頭をよぎったのは、9月の沖縄での10日間、台風が妨げられずに奉仕を全うできるだろうかという心配でした。

前日に千葉県を中心に関東周辺に大きな被害をもたらした台風15号が去った10日の午後、被災地のことを祈りながら羽田から沖縄行きの飛行機に搭乗、予定より一時間ほど遅れて那覇空港着、ホテルに直行して翌日からの奉仕に備えます。

11日（水）の朝は、宜野湾ホーリネス教会シービューチャペルで行われた沖縄福音連盟（OEF）の牧師祈祷会でメッセージと活動報告、ギター伴奏で『あたらしい歌2』から讃美。沖縄福音連盟は1958年に創立された沖縄にある福音的な諸教会の連盟です。初めてお会いする先生がほとんどでしたが、温かく迎えてくださり、讃美についても高い関心を示していただきました。また、沖縄の諸教会の青年伝道への取り組みをはじめ、さまざまな祈祷課題を分かち合ってください、ともに祈りました。

夜はJECA 宇堅福音教会（石川芳隆牧師）と石川福音教会（重元清牧師）の合同講演会。会場は宇堅福音教会。本島中南部の宜野湾から普天間基地をかすめて中部のうるま市まで車での移動になりますが、石川師にお願いしてなるべく普天間基地の近くを走っていただきました。今回、沖縄の現実を知ることこの訪問の目的の一つだったからです。

車で普天間第二小学校の前を通りながら、二年前の2017年12月、米軍ヘリから窓が外れてこの小学校の校庭に落下したことを教いただきました。沖縄では、軍事基地に隣接した小学校で子どもたちが日々学び遊んでいることを目の当たりにした瞬間でした。他にも、1972年の沖縄返還以前に本土の神学校で学んだ沖縄の先輩牧師たちが、パスポートを持って「来日」していたことも知りました。

夜の集会では、讃美歌と讃美歌集作成の背景について講演をし、新しい讃美歌を一同で讃美。二つの教会を中心に主催者の予想を超える方が参加してくださり、祝福された集会を持つことができました。

12日（木）の午前、重元師の案内で辺野古と高江へ。報道で紹介されている辺野古のゲートにはこの日もダンプカーが出入りし、埋め立てに反対する人たちがプラカードを掲げていました。少し離れた浜には反対の拠点になるテントがあって数名が詰めていました。テントで辺野古のこれまでとこれからについて説明を聞きながら、問題が埋め立てだけではないことを改めて教えられました。やんばるの広大な土地をキャンプシュワブと呼ばれる米海兵隊の基地が占め、その真ん中を名護市と那覇市を結ぶ国道329号が通っています。国道の西側は軍の訓練地域、東側は居住区と辺野古の海と弾薬庫があり、弾薬庫は今も機能が強化され続けています。途中、本土からの学生と思われる数名の団体がテントを訪れて熱心に説明を聞いていたのが印象的でした。

辺野古から北東へ約47km、車で約一時間の距離に高江のヘリパッドがあります。重元師に足を延ばしていただき現地を訪れましたが、山の中を走る国道に面して幾つかのゲートがあり、警備員が立っているだけで、山の中にあるヘリパッドの様子を伺うことはできませんでした。

この日の夕方は、沖縄バプテスト連盟の普天間バプテスト教会で、神谷武宏牧師との対談。この対談はライフセンター那覇の中村信義兄の発案で、重元師をコーディネータとして行われました。対談前に首都圏の大学生たち十数名が神谷師の講義を聴きに保育園に来ていました。私たちも一緒に聴きましたが、そこで語られた、基地の島沖縄の現実にはあまりに過酷なものでした。対談の詳細は「クリスチャン新聞」の2019年11月10日号から数週に渡って「沖縄で語る賛美の力、本質」というタイトルで連載されていますので、多くの方にお読みいただきたいと思います。

普天間バプテスト教会には緑ヶ丘保育園が併設されており、神谷牧師はその園長も務めておられます。2017年の12月に保育園の屋根に米軍ヘリのものと思われる落下物がありました。幸い園児や職員に怪我はありませんでしたが、この事件についての米軍と日本政府の冷淡な対応は、沖縄の今の問題を浮き彫りにするものであると言えるでしょう。厳しい折衝を何度も重ねてこられた神谷牧師が、対談の中で「顔と顔を合わせて語り合っていく、心と心を通じ合わせるというのは、仕事の中でも大事なことでないでしょうか」と語られたことが心に深く残りました。

13日（金）は奉仕のない日で名護に滞在、午後に民俗資料博物館を見学。名護バスターミナルから路線バスで約20分、バス停から住宅地やさとうきび畑を抜けて歩くこと約10分。納屋や倉庫の増築を繰り返したような独特の建物が右手に見えます。県内最大の私設博物館「民族資料博物館」です。本館には、おもちゃや本、食器や家電、大小さまざまな工具や道具などの生活用品・雑貨が所狭しと並べられています。別館の戦争資料館には、機関銃や軍刀、無線機や軍服の他に、赤紙や方言札、衛生兵の医療道具など、二つの館を合わせると約二万点が展示されています。ところで「戦争資料館」の看板には「戦争」の文字が上下反対に書かれていて、それは「戦争反対」を表しているとのことでした。小綺麗でもなく、整然としているわけでもなく、学術的とも言えない、けれども、ここで初めて見るものも多く、「もの」そのものが何かを語りかけてくる不思議な魅力に満ちた、考えさせられることの多い博物館でした。

14日（土）は、夜に JECA 首里福音教会（由井純牧師）で「讃美歌の名曲発掘」というタイトルでオーディオ・コンサートの奉仕でした。集会の様子は由井師のレポートに詳しいので譲ります。この日は少し早め

に高速バスで名護を發ち那覇に向かい、夜の集会までの間の時間に「不屈館」を訪れました。那覇市の若狭海浜公園のそばにある不屈館は、沖縄の政治家、瀬長亀次郎（1907-2001）が残した資料を基に開設された資料館です。瀬長亀次郎は、戦後、アメリカと厳しく対峙しながら沖縄県民の生活と安全を守ろうとした方で、那覇市長、衆議院議員などを務めました。本土ではあまり知られていませんが、沖縄では今も広く親しまれ、評価の高い政治家です。近年、映画『カメジロー 沖縄の青春』（1998）、『米軍（アメリカ）が最も恐れた男 カメジロー不屈の生涯』（2017）等を通して本土でも注目されるようになりました。

今回は訪れることが出来ませんでした。不屈館から 300 m ほど離れたところに対馬丸記念館があります。対馬丸は、1944 年 8 月 22 日に沖縄からの学童疎開輸送中に米潜水艦の魚雷を受けて沈没し、1484 名の犠牲者を出した学童疎開船。この事件は当時、箝口令が敷かれ犠牲者の家族にも真実は知らされませんでした。

15 日（日）は JECA 馬天キリスト教会（狩野和義牧師）での礼拝奉仕。ここまで天気は守られてきましたが、この日は朝から雨で、風はさほど強くなかったものの時間帯によっては豪雨となりました。礼拝は狩野師の司会で、よく備えられた聖歌隊による「あなたの平和の」（485）の讃美と、たくさんの会衆讃美を交えて進められました。この日の聖書は詩篇 34 篇、「口にはいつも主への讃美」というタイトルで宣教を語りました。礼拝後は教会の皆さんと愛餐を共にしましたが、席上、お一人一人から証しや感想などをお聞きすることができ、心も体も豊かに満たされる時でした。

午後には日本キリスト教団の上地教会（当時無牧、代務者：具志堅篤牧師）での礼拝奉仕がありましたので、馬天の皆さんとのお挨拶もそこそこに、豪雨の中を狩野先生の車で送っていただきました。上地教会は歴史のある教会ですが、この時は無牧で、熱心な信徒の方々が忠実に教会を守っておられました。11 月には新しい牧師が赴任される予定であると聞きまして感謝した次第です。説教は、朝と同じテキスト、同じタイトルで語りました。礼拝後には短く讃美歌のお話しをしましたが、信徒の方から促されて予定外の独唱もすることになりました。

16 日（月・祝）は上地教会から近いコザのホテルに宿泊、空調のせいか喉を痛め、咳が止まらなくなりました。この日は休養日だったので、午前中は身体を休め、午後にバスで 30 分程の距離にある嘉手納基地を訪れました。実際に訪れたのは基地のすぐ北側にある「道の駅かでな」で、屋上の展望場は撮影スポットにもなっています。嘉手納基地は約 100 機の軍用機が常駐する極東最大の空軍基地で、ジェット機の離着陸の回数と騒音はヘリコプターが主体の普天間基地とは比べものにならないくらい酷いと聞いています。ただし土日祝は離着陸がほとんどありません。それでも 1 時間ほどの間に数機の発着がありました。道の駅の屋上から基地を見ると、その大きさに驚かされます。その面積は羽田空港の二倍にもなるそうです。道の駅の 3 階には学習展示室があり、基地が出来る前の戦前の嘉手納の様子と、基地ができてからの様子を比べることができます。

17 日（火）は石垣島への移動日です。高速バスで那覇空港まで移動。この日は搭乗手続きにひどく時間がかかりました。お昼には石垣空港に到着。空港には JECA 八重山福音光る海教会の相山扶牧師が出迎えてくださり、そのまま石垣をあちこち案内してくださいました。今回、相山師は石垣の自然の名所だけでなく、自衛隊基地建設現場や八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑も見せてくださいました。戦争マラリア犠牲者は、太平洋戦争末期に日本軍の命令によって強制的にマラリアの発生する地域に疎開させられ、マラリアによ



て3647名が犠牲になった事件です。その数は空襲による犠牲者の20倍以上でした。

18日(水)の夜は、八重山福音光る海教会で「信仰と讃美、礼拝の讃美」と題しての講演会、詩篇100篇を主題聖句として、礼拝における讃美の位置づけや讃美歌作成の歴史について話しました。また『教会福音讃美歌』収録の新しい讃美歌から復活、交わり、平和の讃美歌を、信徒の方のギター伴奏で歌いました。この方はご夫妻で讃美歌を作って演奏しておられる方で、集会の後、数曲、自作の讃美歌を演奏してくださいました。お二人の讃美歌は教会の礼拝や諸集会でも豊かに用いられていると伺いました。オリジナル讃美歌のファイルをいただいたのは、今回の沖縄訪問での大きな収穫でした。

19日(木)、10日間の沖縄での奉仕を終え、石垣空港から以前には無かった羽田直行便で帰路につきました。夕方、帰宅後に相山師から届いたメールには「今日台風が発生して、強風域に入りました」とありました。

表紙写真 石垣島最西端の御神崎(おがんざき)
前頁写真 嘉手納基地(道の駅からな 屋上展望場より)
撮影 中山信児

『教会福音讃美歌』編集作業の道のり 連載第13回

福音讃美歌協会 讃美歌委員 中山信児

1. 装丁、「まえがき」「索引」など

これまで、編集作業のあれこれを書いてきましたが、それはメインコンテンツである506曲の讃美歌とその並びについてでした。讃美歌集が一冊の本として出来上がるには、他にもいろいろな作業があります。

まず本の体裁について、どの程度の大きさにするか、表紙をハードカバーにするかソフトカバーにするか、全体のページ数といったことを出版社と協議しました。出版社は本作りのプロですので、それぞれの項目についていくつかの可能性を提示していただき、こちらの希望とすり合わせて決めていくことになります。

その際、留意したのは利用者にとっての利便性です。例えば、大きな本は見やすいのですが、讃美歌のように毎週、持ち運びするものについては、重さがネックになります。結局、最初はB6判という他の讃美歌集でも多く採用されている判型を採用することにしました。ただし、その大きさで、できる限り読みやすくなるよう、版面のレイアウトやフォントなどを工夫しました。後にA6判という、これも他の讃美歌集の小型版でよく採用されている判型の小型版を出しましたが、読みやすくする工夫が功を奏したのか、年配の方から持ち運びの楽な小型版について好意的な評価を多くいただきました。

カバーの堅さは、開きやすさや持ちやすさに大きく関わってきます。礼拝や集会で目指す番号に辿りつくためには、表紙を持ったまま軽く曲げて親指でパラパラとページを繰る動作が便利です。そのためにカバーはソフトでそれなりのコシのあるビニール装を選びました。本の綴じについては「どのページも最初から開きやすいこと」と「毎週何度も開くものなので丈夫であること」という二点を出版社に特に要望しました。

全体のページ数についてはいくつかの方向から考える必要がありました。一つはやはり利用者の利便性でした。あまり分厚く重くならないようにということと、値段が高価にならないようにということ。もう一つは、実際に礼拝で讃美をささげる際に、必要かつ十分な曲数を収録するということです。相反する方向性になりますが、検討の結果、編集作業の進捗状況とも合わせて、約1000ページ、500曲規模の歌集を作ることにしました。

装丁については、讃美歌委員会の意見を聞きつつ、理事会で審議、決定しました。ところでデザイナーに装丁デザインを依頼するには、歌集のタイトルとJEACSのロゴを決める必要がありました。

タイトルについては、理事が選出された教派、教団の背景や、重荷を持っている世代によって、様々な意見が出され、長い時間をかけて議論し、最終的に『教会福音讃美歌』という名称に決まりました。途中『福

音讚美歌』という名称も有力な候補としてあがりましたが、他のグループでこの名称が使われていることが分かり、使用を断念したという経緯もあります。JEACS ロゴは、デザイナーから上げられた数種類の案から、候補を絞り、こちらの希望を入れて最終的に「たて琴」に JEACS の文字をあしらったデザインになりました。このデザインには時代や教派的背景を越えた讚美の本質が表されています。

装丁もデザイナーからあげられてきた数種類の案の中から選んだのですが、理事の間でも一つに絞り込むことができませんでした。最終的に「スタンドグラス」と「抽象画」の二種類を出版することにしました。当初、中型版（B6判）は二種類のカバーデザインで出版されましたが、その後のCD、『伴奏譜』なども「スタンドグラス」のデザインに統一され、現在は「抽象画」は出版されていません。

仕事紹介

「賛美と向き合うとき」

ウィズダム代表 大嶋英知

クリスチャンの音響会社ウィズダム・サウンドは、現在 TWR（トランス・ワールド・レディオ）という、世界 160 カ国以上にインターネットとラジオを使って聖書の言葉を届ける働きに携わっています。その中で、日本でもコミュニティラジオを中心に全国のラジオ局へ『Praise and Worship』『ゴスペルのちから』などの番組を制作・配信しています。その他にも Instagram と YouTube を使った、聖書と賛美歌のコンテンツなどを作るプロジェクト『Blessing Life』を企画しています

以前から、「まだ知られていない素晴らしい賛美歌を何か広める方法は無いだろうか？」という思いがあり、知り合いのクリスチャンアーティストの方々に集まってもらい、一緒に祈り、模索しながら賛美の収録を試みてきました。メンバーが一同に集まって、讚美歌の背景や意味を考え、呼吸を合わせながら賛美する時間は、本当に大切な時間だと思っています。

そして、今年の6月に神奈川県川崎市向ヶ丘にある「Paz Coffee Shop」で、『Blessing Life -Concert & Worship』を企画し、『教会福音讚美歌』の中からも選曲して賛美させていただきました。実は、このコンサートの1週間前に、コンサート会場のお店から徒歩5分ほどの場所で、登戸の殺傷事件が起きました。事件当日にニュースを見て、居てもたってもいられなくてカフェに行き祈りました。こんな時にコンサートをするべきか？やめるべきか？

様々な思いがありましたが「今こそ、共に祈り賛美するべきだ」と思われ、コンサートの当日は皆

で黙祷の時をもって始まり、賛美をしながら本当に神様が備えてくださった時なのだと感じました。

私は、小さい頃から讚美歌・聖歌で育ってきたので、『教会福音讚美歌』は少しメロディーが変わっていたり、歌詞が違っていたりとはじめは戸惑いがありました。しかしそれよりも今は、多く素晴らしい知らない曲があることにワクワクする思いがあります。メロディーを知らないと、なかなか新しい歌を教会で歌うのは難しいかもしれませんが、そんな時に役立つような動画コンテンツなどを今後何か作っていくことが出来たらと思っています。



2019年6月1日
『Blessing Life -Concert & Worship』より
「暗闇に輝く灯」(129番)
<https://youtu.be/gN1term2-qQ>



TWR制作のラジオ番組一覧
<https://www.twrjp.com/fmstation>

* 会計報告 *

2019年4月～2019年9月

■収入の部■

科 目	2019年度予算	2019年度実績
会員負担金	1,140,000	930,000
(正会員)	(750,000)	(750,000)
(準会員)	(60,000)	(60,000)
(賛助会員)	(330,000)	(120,000)
自由献金	380,000	346,000
積立金取り崩し	100,000	126,000
特別収入	30,000	0
その他	0	1
当年度収入合計 (A)	1,650,000	1,402,001
前年度繰越金	657,160	657,160
収入合計 (B)	2,307,160	2,059,161

■支出の部■

科 目	2018年度予算	2018年度実績
理事会費	115,000	82,554
委員会費	270,000	177,474
人件費	360,000	180,000
事務費	193,000	156,311
ジャーナル発行費	405,000	115,391
カンファレンス開催費	160,000	170,608
総会開催費	25,000	6,543
JEA 関係費	90,000	91,436
経常支出合計	1,618,000	980,307
特別支出 積立金	100,000	100,000
積立金取り崩し支出	100,000	126,000
予備費	20,000	0
当年度支出合計 (C)	1,738,000	1,080,307
当年度収支差額 (A) - (C)	-88000	321,694
繰越額/残高 (B) - (C)	569,160	978,854

●賛助会費納入者・献金者一覧 (2019年4月～2019年9月)

個人：稲垣博史・緋紗子、大賀勝範、北田直人、篠田安子、寺村秀嗣、福田崇・愛子、本間昭弘、山村雅彦、匿名 (9件)

教会・団体：日本福音キリスト教会連合、キリスト教朝顔教会、登戸教会、グレイスオンライン、菅生キリスト教会、千歳烏山光の子聖書教会、都賀キリスト教会、武蔵台キリスト福音教会、馬天キリスト教会、石川福音教会、宇堅福音教会 (11件)

お名前掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール (info@jeacs.org) で、その旨をお知らせください。

冬期献金のお願いと賛助会員のお誘い

ハレルヤ。
新しい歌を主に歌え。
敬虔な者たちの集まりで主への賛美を。 詩篇 149:1

いつも福音讃美歌協会の働きを祈り支えてくださり、心から感謝いたします。
早いもので2005年の福音讃美歌協会の設立から14年が、2012年の『教会福音讃美歌』の発行から7年が経ちました。この間、『教会福音讃美歌』が多くの教会から好意的に受けとめられ、礼拝、諸集会において用いられてきましたことを感謝いたします。

福音讃美歌協会では、『教会福音讃美歌』の発行後も、CD『教会福音讃美歌』全5巻のリリース、『伴奏譜』や『あたらしい歌2』の発行、そしてJEACSホームページ『情報ページ』の充実、オーディオ・コンサートや諸教会への講師派遣、各種懇談会の開催などの活動を通して、主と主の教会にお仕えしてきました。特に『情報ページ』では、歌詞・タイトル検索や、他の歌集での掲載についての検索ができる他、曲や作者の情報が参照できます。讃美歌の選曲にご活用ください。

今後、聖歌隊などで使える『合唱譜』や『あたらしい歌3』の発行などを通して、諸教会における礼拝讃美のさらなる向上のために、働きを進めてまいります。そして、10年、20年の後には『教会福音讃美歌』の全面改訂という作業も控えています。遠い将来の働きですが、必要な資料の収集や、各委員の研鑽を怠ることはできません。また、将来の働きを担う人材の発掘育成も急務です。このような働きへの継続には財政基盤の充実が不可欠です。

皆様のお祈りとお助けくださる献金は、福音讃美歌協会の運営のための大切な土台となっています。これからも、この働きが主の御心にかなって継続されるよう、さらなるお祈りとお支援をいただきたく、心からお願い申し上げます。また、賛助会員になってくださり、継続的な支援者として、この働きをお支えくださいますようお願いいたします。

福音讃美歌協会 理事会

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127
名称 福音讃美歌協会

◆郵便貯金口座◆

番号 10500-82654721
名称 福音讃美歌協会

◆みずほ銀行ユーカリが丘支店◆

普通預金 番号 1604668
名称 福音讃美歌協会

■福音讃美歌協会 ◆賛助会員募集

- ・「賛助会員」は、福音讃美歌協会の趣旨に賛同し、支援して下さる教会や個人の会員です。
- ・賛助会員のお申し込みは、福音讃美歌協会までメールかFAXで入会申込書をご請求ください。
- ・賛助会員の年会費は、一口5,000円で、個人は一口から、教会は二口からでお願いします。
- ・正会員、準会員の詳細については、福音讃美歌協会まで直接お問い合わせください。



福音讃美歌協会 (JEACS)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 602号室
Tel.03-5341-6920 Fax.03-5341-6921 (いのちのことは社出版事業部内)
ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org